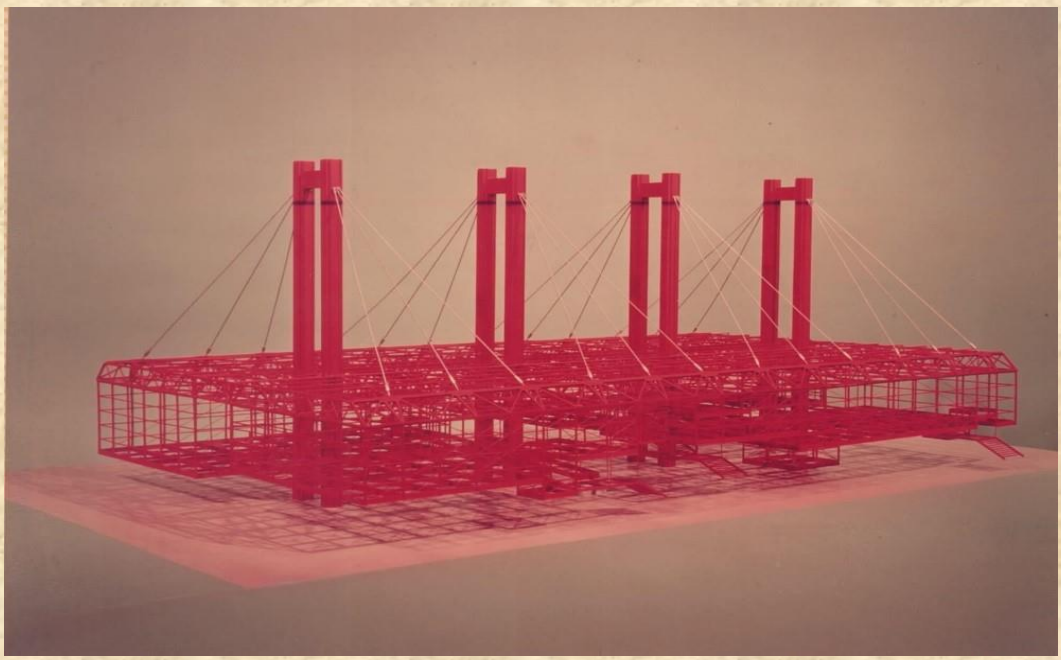
「旧いアルバム」より～

『EXPO'70　鉄骨建築記録写真集』その3

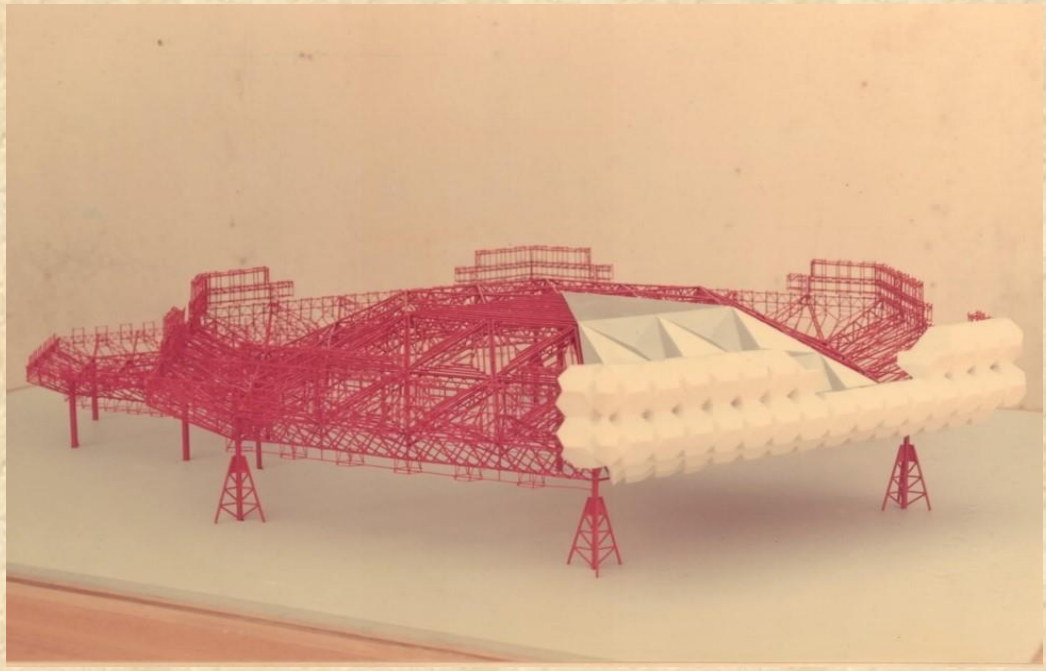
今回は、“その3”として、大阪万博で鉄骨部材の製作に携わった4つのパビリオン（イギリス館、化学工業館、フランス館、コートジボアール館）の画像を掲示します。

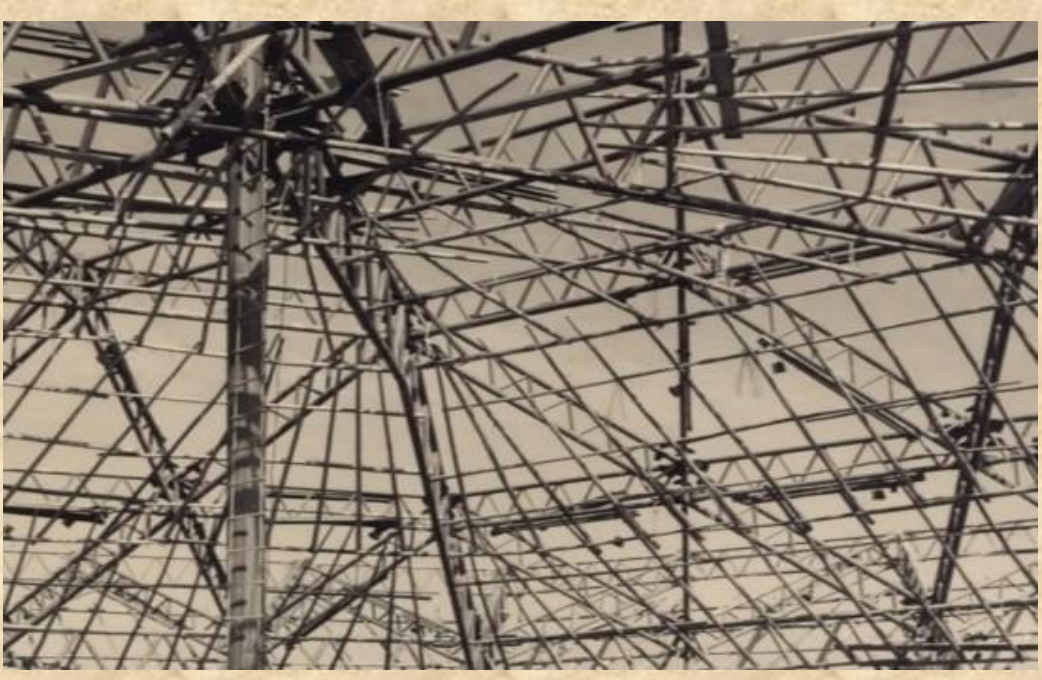
イギリス館

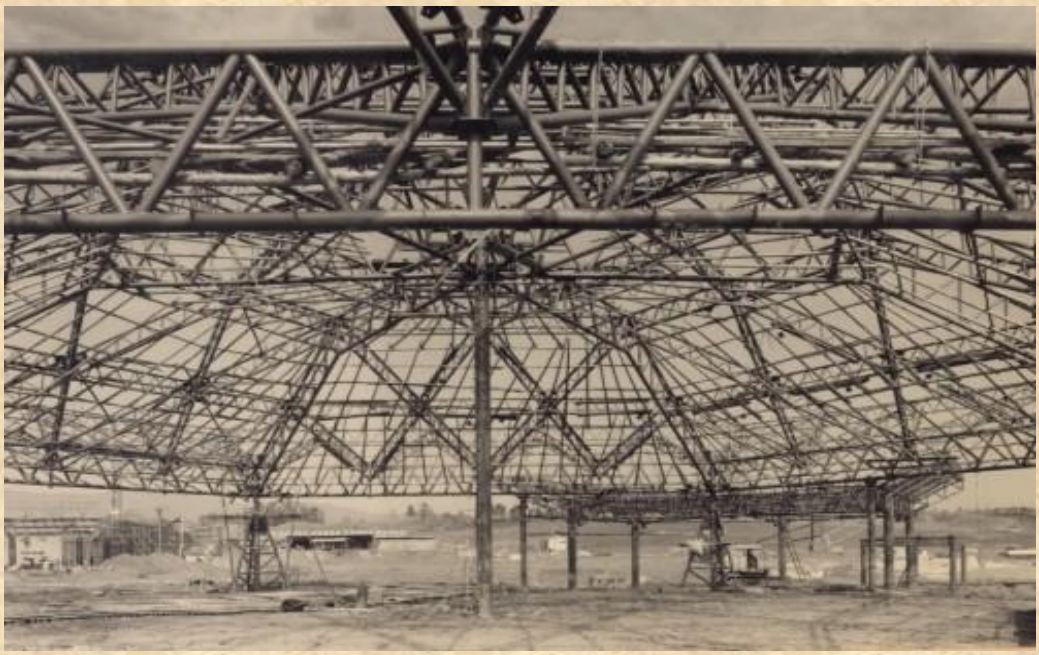


エキスポ‘70のパビリオンは吊屋根構造のものが多かったのですが、イギリス館はその代表的なものと云えます。
高さ30メートルを超える4本のマストから、60ミリのワイヤーロープで延面積3,758平方メートルの建物を吊り上げました。
現場の頑張りにより、すべてのパビリオンの中で最も早く竣工を迎えました。
イギリス館のテーマは、「明るい未来へ のびのびと進歩！」です。

化学工業館







化学工業館は、日本化学工業協会が主催するパビリオンです。
その造形は、分子構造を象徴する六角形を基本形としていて、銀色の屋根も六角形の組み合わせによって構成されていました。
パビリオンは、鉄骨と一部の鉄板を除き、全て化学製品で造られていて、建物そのものが、新開発の化学製品の展示物となっていました。
なお、テーマは「化学と人生」です。

フランス館

フランスのパビリオンは、エア・ドームが4個集まった造形となっていて、そのうちの3個は互いに重なり合った半球体の造形となっていました。
パビリオンの外観は、昼は白い塗装が優雅な印象を与え、夜は点滅する光が幻想的な印象を与えました。
なお、テーマは「よい生活の設計」となっていました。

コートジボアール館

コートジボワールのパビリオンは、2つのパビリオンから成っていました。
「歴史館」は、土民の家を模した造形となっていて、1960年以前の独立以前の様子を紹介していました。
また、「近代館」は、4つの円筒形の建物で構成されていて、独立後の躍進ぶりを紹介していました。
その外観は、“象牙海岸共和国”とも云われるイメージに合わせて、“象牙”を模したものとなっていました。
なお、テーマは「伝統と進歩」です。

EXPO‘70は、会期中（1970年3月14日～9月13日）に6421万8770人もの人々が訪れた過去最大規模の国際博覧会です。
3回にわたって掲示しましたが、日本ファブテックが施工した大阪万博内のパビリオン等の建物は、これ以外にもあります。
建設中の写真はアルバムに残っていませんでしたが、このほかにもサントリー館、お祭り広場万博ホール、インターナショナルプレスパビリオンなど、合わせて約1万トンの鉄骨を手がけています。
もちろん、会場外に目を移せば、万博関連道路に架けられた多くの橋にも関っています。